

特集

# 初のオンライン開催となった 北海道支部集会

荒明慎久（美瑛町郷土学館）

## 1. オンライン開催の経緯

北海道支部では近年、年1回の支部集会を行うことが慣例となっています。2020年の支部集会は予定通りであれば、なよろ市立天文台を会場に実施する予定でしたが、コロナ禍の影響で従来の対面を前提とした支部集会は実施が難しい状況でした。

7月下旬に新旧代議員でZoom会議を行い、①11月上旬に支部集会を実施すること、②オンライン集会としつつもPC環境や操作の不安がある方向けの対面会場（名寄、札幌）を設けることを決定しました。対面会場はソーシャルディスタンスを保ち、3密を避けることができるよう、人数を制限しました。

オンラインでの支部集会は初めての試みであるため、対面会場を含めた集会の進行に当初はとても不安がありました。このため、Zoom会議をよく使われるという方々に実行委員としてサポートしていただけるようお願いし、7名の体制で準備を進めました。7名は二手に分かれ、名寄会場を4名、札幌会場を3名で対応することにしました。

参加申込はZoomのフォームを利用することとし、集会の数日前に実行委員でZoomミーティングを通じてPC操作の確認等のリハーサルを行い、当日の流れを確認しました。

例年であれば集会終了後に情報交換を兼ねた懇親会を実施していたため、オンラインでの懇親会実施も検討しましたが、会場の使用時間制限や進行の問題もあり今回は見送ることとしました。

## 2. 当日プログラムとオンライン開催のメリットとデメリット

### 2.1 当日プログラム

2020年の支部集会は、「2030年北海道金環日食」をテーマとして実施しました。当日プログラムは表1のとおりです。

表1 当日プログラム

	演題・発表者
一般講演	「木星・土星の”超”大接近に向けて～星空の下での星の見え方調査～」内藤 博之さん
	「ほくでん【おもしろ実験室】を手伝ってみた」増田 文子さん
	「アイヌの星座と北海道の日蝕にまつわる歴史、2030年に向けてのアイヌ星座紹介活動の計画」山内 銘宮子さん
テーマ講演	「私の日蝕受入体験記」福澄 孝博さん
	「茨城県大洗町の金環日食」西原 征治さん
	「金環日食の撮影」荒明 慎久
招待講演	「2012年金環日食から2030年金環日食への継承と課題」大西 浩次さん
	「金環日食限界線プロジェクト」井上 毅さん
	「金環日食を楽しむために～安全な観察をめざして～」齋藤 泉さん
	「2012年金環日食の調査結果について ～2030年金環日食に向けて～」飯塚 礼子さん
質疑応答・全体ディスカッション	

## 2.2 メリット

北海道以外からの参加が多数ありました。また、招待講演についても北海道外の4名の方にお話しいただきとても充実した集会となりました。参加者は最終的に46名となりました。

## 2.3 デメリット

想像以上の参加者があったために、参加者の自己紹介をどのように行うかが課題となりました。Zoomのチャット機能を利用した自己紹介を検討しましたが、最終的に一人ずつ簡単な自己紹介を口頭でお願いすることとしました。当日は一人ひとりミュートを解除して挨拶をしていただきましたが、想定していた以上に時間がかかってしまいました。また、対面会場の音声小さいといった問題点もあり、序盤の進行に遅れが生じました。

でしたが、たくさんの方に参加していただき1日のプログラムとすることができました。質疑応答やディスカッションにおいても活発な発言があり、とても盛り上がったと感じています。今回のテーマとなった2030年の日食はまだまだ先ではありますが、集会内容をまとめておくことは非常に有用であるという意見があり、取りまとめることにいたしました。講演・原稿を執筆していただいた皆さま、実行委員を引き受けてくださった皆さまに感謝申し上げます。

最後に、2021年の集会は札幌を会場として実施する予定ですが、昨今のコロナ禍はまだ収まる気配がありません。現時点では2020年同様にオンライン+対面会場を想定しなければならないと感じています。経験値が上がった分、スムーズに進行できると思いつつコロナ禍の収束を願うばかりです。

## 3. 支部集会の手応えと2021年の見通し

例年は午後の時間だけとしていた支部集会

荒明 慎久

\* \* \* \* \*